

令和元年度第3回神奈川県子ども・子育て会議
 「かながわ子どもみらいプラン（令和2年度～令和6年度）」に基づく
 子ども・子育て支援施策の推進に関する意見（要旨）

項目	委員名	ご意見等（要旨）	対応の方向性
子ども・子育て支援の取組みについて	稲垣委員	今回のコロナ対策の一環の学校の一斉休校でも問題となったが、 <u>学童保育の質的量的拡充のための施策展開や、増え続ける高齢者の社会貢献をしたいという気持ちを子育てに取り込めるような一層の取組みを期待する。</u>	現行プランの取組みを推進し、地域の子育ての充実を図ります。
	織田委員	<u>仕事と子育ての両立において、男性の家事育児参画は重要課題と考える。当事者への早期の意識付けや夫婦パートナーシップをベースとした具体的な学習の場として、両親学級の義務化や学習内容の強化（父親学級や、共働き夫婦で学ぶワークライフバランスのノウハウ等）など、夫婦でリアルに学べる場を拡充することが促進につながるのではないか。「チーム育児」で夫婦や家族みんなで乗り越えていく、同じ目線での意識付けを目的とした取組みが必要ではないか。</u>	現行プランの取組みを推進します。
	池本委員	<p>（パブリックコメントの指摘について）</p> <ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応について <u>食物アレルギーのある子どもや親が何に困っているか、何を期待しているのか、直接調査などはされているか。重度のアレルギーの子どもを持つ親として、ICTの活用で医療現場、学校、親や子どもの負担を軽減できることも多くあると感じる。（子ども食堂やコロナ対策の昼食宅配も「アレルギー対応はしません」が多い。）</u> 調布市では慈恵医科大学と提携して、アレルギーホットラインを学校等と結んでいる。 <u>未病を掲げる神奈川県には、全国のモデルとなるような子どもの食物アレルギー対策の検討をお願いできないものかと思っている。</u> 自然保育の無償化や、自然の遊び場の減少について 国の無償化の動向を見る、スポーツ施設を充実する、との説明があるが、<u>自然の遊び場はスポーツでは代替できないものだと思う。</u>鳥取県では、自然を活用 	今後の取組みの参考とします。

項目	委員名	ご意見等（要旨）	対応の方向性
		<p>した保育が子どもに大きな効果があるという研究成果も踏まえ、独自に自然保育への補助を行っている。</p> <p>神奈川県としても、<u>自然保育や自然の遊び場を重視して、積極的に支援していくことはできないか。</u></p> <p><u>放課後の多様な居場所を求める声もあったが、単に放課後児童クラブを増やすのではなく、木登りや穴掘りができるプレーパークを増やす、自宅の庭を子どもの放課後に開放するなど、国の制度の枠にとらわれずに検討いただきたい。</u></p> <p>・ 親のリフレッシュについて</p> <p>親のリフレッシュは、子どもと離れることだけでなく、親子が楽しい居心地の良い時間を持つことこそリフレッシュだと思う。</p> <p><u>学校や幼稚園・保育園に親がほっとできたり、おしゃべりできたり、必要な情報が得られたりするカフェを作ることなど、県としてリードできないものか。</u>私立園ではブックカフェを設け、親だけでなく、地域の高齢者にとっても居心地の良い居場所を作っている例がある。</p>	
点検・評価方法について	池本委員	<p>・ 需給計画について</p> <p><u>計画通り進まなかった理由を具体的に県民に説明する必要があると感じる。</u>たとえば、保育士が確保できなかった、事業者が見つからなかった、ある特定の市町村で計画の遅れが目立ったなどです。それをふまえて、どうやって計画通り供給するか、その手法についても説明した方がよい。</p> <p>・ 目標値の達成率について</p> <p>違和感を感じるものがいくつかあった。たとえば、作文コンクール応募件数、喫煙防止パンフレット配布数などで、目的は自殺などを考えない子どもを増やす、喫煙しない子どもを増やすことだと思うが、<u>作文を書いたりパンフレットを配布すれば目的が達成されるわけではないように思う。</u>たとえば、<u>自殺は絶対にしてはいけないと思う子どもの割合や、喫煙した子どもの割合がどう変化しているかを、目標にして点検すべきように思う。</u></p>	現行プランの点検・評価方法に反映します。

項目	委員名	ご意見等（要旨）	対応の方向性
	内田 委員	平成30年度点検・評価結果報告書の目標値の達成状況について 「2 平日の一日の読書量が10分以上の児童・生徒の割合」とあるが、 ・ <u>どのように判断しているのか</u> ・ <u>達成のためにどのような取組みを行っているのか</u>	
新型コロナウィルスによる生活への影響と新たな取組みについて	桂 委員	新型コロナウィルスの影響で、学校休校や外出は自粛により、じっとしていると気分が鬱々としてくる。しかし、この状態は、 <u>出産後、家で一人で小さな子供を育てている時と似ている。</u> しかし、今はみんなが同じ状況で、オンラインシステムで雑談ができたり、会議にも参加できる。 <u>これを機に、オンラインでの0歳児学級、両親学級、検診やヒアリング、お話し会などが一般化すれば、子育て中の方にとっての選択肢が増えることになると思う。</u>	新型コロナウィルスの影響について、現状を把握し、必要に応じて見直しを検討していきます。
かながわ子どもみらいプラン全体について	小沼 委員	<p>・パブリックコメントで最も意見が多かった「3 基本的視点1『子どもが生きる力に関する意見』について、A（改定案に反映）が31.8%、B（既に取り組んでいる）が18.2%、C（今後の参考）が50%となっていて、県民の皆さまの置かれている状況によって、さらに様々な意見があるのではないかとということを実感した。</p> <p>なお、その全てが「かながわ子どもみらいプラン」に反映しなければならなかった内容かどうかは検討の余地があるが、<u>いずれにしろプランの姿勢、あるいは方向性という意味で、「理念」をしっかりと持っていなければならないと思う。</u></p> <p>・パブリックコメントの意見の「自己肯定感を高める取組み」について、<u>「『子どもが生きる力』を伸ばすために」といった意味では、本質的には重要な意見かと思われる。</u></p> <p>従前から子どもの育ちについて考えてきた者としては、「かながわ子どもみらいプラン」の①子どもの育ちと②子育ての2本の柱の、<u>①子どもの育ちにもう少し光を当てたものにならないものか</u>と思っていたが、</p>	<p>基本理念の実現のために現行プランを推進します。</p> <p>めざす姿の「すべての子どもが、自らそれぞれの個性や能力を伸ばし、健やかに成長できる社会」の実現に向けて、子ども・子育て支援におけ</p>

項目	委員名	ご意見等（要旨）	対応の方向性
		<p>特にそれを施策に組み込んでいくことの難しさを感じた。</p> <p>自己肯定感を持ってている子どもが少ないことや、子どものうつや不登校の状況もあり、「子どもの権利条約」に示されている「<u>子どもの主張の尊重</u>」は、<u>社会がもっと理解して、子どもが主張できる社会を構築していくことが必要だと考える。</u></p> <p>社会のおとなの教育観や、他にも急激な文明の進化、家族構成の変化、価値観の変化など、子どもが疲れている背景があり、<u>今の社会は、子どもたちが自分らしく伸び伸びと成長できる状況にないと言えるのではないか。</u></p> <p>私見ではあるが、プラン作成にあたって様々な考え方があり、前述のところまで踏み込むことはなかなか難しいとは思いますが、それがなければ「子どもたちが自分らしく伸び伸びと成長できる」ことを考えた「<u>かながわ子どもみらいプラン</u>」にはならないと思う。</p>	<p>る課題を認識し、取組みを進めます。</p>
	<p>桂 委員</p>	<p>・神奈川における子育て状況について現状がどうか、時代がどのように変化しているのか、とても勉強になり、これを読むと多くの方が神奈川の子育てについて関心を持つようになるのではないか。</p> <p><u>パブコメやプラン改定のタイミングで多くの県民の皆さんに、このプランに関心を持ってもらうことが、社会全体で子育てを支えていくことにつながると思う。</u></p> <p>・委員となり、様々な資料を見せていただき、<u>子育て支援行政を単純な専門域で考えることは難しいということがわかった。働き方、男女の意識、福祉、教育など、多領域と連携をとっていくことが必要で、また、人口の移転などの観点からは、県内の政令指定都市や県外の地域の状況とも密接に関わっている。SDGsとの関連性もあると思う。</u>今後も様々な領域と連携をとっていきながら、取組みが行われていくことを要望する。</p>	<p>現行プランの取組みを推進します。</p>

項目	委員名	ご意見等（要旨）	対応の方向性
		<p>また、今回大きなテーマを「子どもが生きる力」「保護者が育てる力」「社会全体が支える力」の3つの柱の大切さ、メッセージの強さを感じている。行政任せにせず、市民が主体的に考え、子育てに希望を持ち、子育てをしたいと思えるまちを作るためにも大切なメッセージだと思う。</p>	